

人権啓発講演会

10月22日、あいぴあ泉南で「2024人権啓発講演会」を開催しました。「部落差別から差別のない社会を考える」をテーマに、関西大学人権問題研究室委嘱研究員の宮前 千雅子（みやま え ちかこ）さんにお話していただきました。

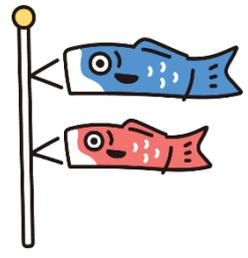
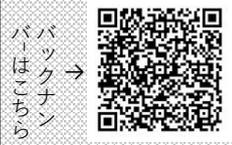


まず始めに差別の捉え方として、自分たちとは違う集団に属すると見なした人を排除する等々の行為として、外的・内的の二重の抑圧や複合差別や交差性についての実態を事例を挙げながら分かりやすく解説いただきました。さらに部落問題の現状を法務省調査や泉南市調査の結果から、私たちの課題についてグループワークをしながら考えていただきました。

きずな

第26号
2025年5月

＜発行＞
泉南市人権啓発
推進協議会



その中で、私たちが「自然」「当たり前」「普通」と感じている事柄が、実はそう感じない人たちにとっては圧力でしかなく、自分の中のマジョリティ（多数派の考え方）を見直していくべきということや、被差別者が変わるのではなく、社会が変わっていく必要性を強く感じました。

私的な関係性で起きる差別は、「見よう」「知ろう」としないと見えてこないことや、インターネット上の課題も多くあります。差別をしない社会にすることが私たちの責務であり、今回の講演で差別問題に対して新たな歩みを進める一歩になったと感じました。

（東校区 堀口 朋子）

◆「わたし」として部落問題に向き合う、とても自分の中で印象に残った。これは部落問題だけでなく、様々な人権課題に対して、「わたし」として向き合っていくかというけないと感じました。

◆差別について知ること、関心を持つことがまず大切だと改めて思いました。私の立場で何ができるのかを考え、学び続けたいと思います。

◆あなたにとって「自然」「当たり前」「普通」が隣の人にとっての「自然」「当たり前」「普通」でないという意識をもって日々、人と関わっていききたいと思いました。社会が変わるよう自分自身も行動していきたいです。



11月16日開催！
市民交流センターまつり

初めて市民交流センター祭りに参加させていただきました。当日はあいにくの雨模様でしたが、司会者からの爽やかな第一声で始まり、エンターズでよさこい踊りの「花笑舞（はなしょうぶ）」さんからスタートしました。最初はよさこい踊りを見ていただけでしたが、そのうち色んな人たちが参入し周りの方も含めて鳴子・和太鼓の迫力ある音とともに全員で楽しく盛り上がりアンコールまで出ました。その勢いそのまま会場では紙芝居、認知症ケアや日本語教室の各団体の発表がありました。建物の中では各種団体の展示、物品の販売等があり、なかでも3階で行われていた「お化け屋敷」では、行列が出来るくらい大盛況でした。



フルト等が販売されていたり、綿菓子やスーパードールすくいでは子どもたちが多く、楽しんでいました。私もフランクフルトのお手伝いをさせていただきましたが、焼くタイミングが難しく多く焼いていると人の流れが止まり鉄板の上に大量に余ってしまい、焼く量を減らすと購入する人が次々と来られお待ちいただくことになりました。

初めての参加でしたが、高校時代の学園祭の雰囲気を感じ、もっとももっとたくさんの方に来ていただきたいと思いました。

（樽井校区 工藤 徳章）

〜きずな・今年もたくさんつながりあいました〜

2024人権週間

毎年12月4日～12月10日は「人権週間」です。今年も人権週間にちなんださまざまな行事(人権作品展、イオンイベント「みんなのカフェ」など)が開催されましたので、紹介します。



11月19日(火)～24日(日)、イオンモールりんくう泉南・イオンホールにて、人権作品展が開催されました。

市内の幼稚園・保育所、認定こども園の子どもたちが作る共同作品や小・中学校の児童・生徒、市民の方々からの習字・写真・標語などの応募作品が展示されました。

応募してくださったご本人やご家族はもとより、買い物にいられた多くの方が立ち寄ってご覧にな

『人権作品展』

られていました。

作品を通して、人権の大切さを身近に感じ考えるきっかけになってもらえればと思います。

(信達校区 生田 直美)

【参加者の声】

◆このような作品展が身近で行われていることを初めて知りました。小さな子どもから大人まで、様々な作品に触れさせていただき、人権について考える機会をいただきました。

◆一つひとつ子どもたちの優しい気持ちがつまっています。展示も見やすく良かったです。



イオンイベント「みんなのカフェ」

11月24日(日)には、作品展と同じ会場で「みんなのカフェ」が開催されました。

「メタバース(仮想空間)」がテーマの今回は、初めに、イオンが取り組んでいる、メタバース上でのバーチャルストア(仮想店舗)について、タブレットを用いて説明がありました。バーチャルストアとは、実際の店内を歩くように商品を見て、購入することができ、実店舗でのショッピングに近い購入体験ができるサービスです。参加者も実際にタブレットを触り、バーチャルストアの世界を体験しました。

次にイオンバーチャルストアに出店している「みいちゃんのお菓子工房」代表の杉野原千里さんより、「親が気づけば未来は明るい」をテーマ

にご講演いただきました。

みいちゃんは場面緘黙症(ばめんかんもくしょう)という、人前で体を動かしたり話たりすることが難しい病気です。しかし、ケーキ・お菓子作りと出会い、お菓子工房を開いたことで、人前でも少しずつできることが増えていったとのことでした。

みいちゃんの作るケーキ・お菓子は本当に可愛くて、見た人が笑顔になれるようなデザインが描かれています。ご興味のある方は、ぜひホームページ等をご覧ください。(事務局)

／人権週間 駅頭啓発／

11月29日(金)、「人権週間」の駅頭啓発を市内4駅で、早朝の約1時間、人権啓発推進協議会役員、人権擁護委員、市職員らが通勤や通学する市民の皆さんに啓発物品を配布し、人権尊重のまちづくりを呼びかけました。



【参加者の声】

◆子どもの可能性を大切にしていきたいことについて考える時間になりました。

◆メタバースのお話はとても興味深かったです。

◆大人の固定概念が子どもの夢を削っていること、考える必要があると思いました。



ふれあい つながりあい 気づきあい 2024 人権週間 市民の集い

人権コンサート

「く音楽から学ぶ“人権”ってなあに」

12月1日(日)「ふれあい つながりあい 気づきあい」をテーマに、泉南市立文化ホールにて、2024人権週間「市民の集い」が開催されました。

当日は天気もよく、大勢の人が参加されました。

オープニングに続き、市民劇団「きらめき」による舞台「こんにちは、母さん」、午後からは各種団体による音楽・ダンス・太鼓等、出演者皆さんの日頃の練習成果が遺憾なく発揮されていました。



最後は今回の目玉、人権コンサートく音楽から学ぶ“人権”ってなあに

く。音楽と人権について、松本城洲夫&アンサンブル・サビーナさんの演奏と講話がとてもよかったです。

「すべての人は生まれながらにして自由であり、いつも分け隔てなく扱われるべきです」と謳(うた)った「世界人権宣言」が国際連合で1948年12月10日に採択され、12月4日から10日までを「人権週間」と定め



人権ってなんだろう？

人権とは「誰もが生まれながらにして持っている人間として幸せに生きていくための権利」です。

お互いの違いを認め合い、尊重し合う関係を築くことが大事です。

難しく考えないで、お互いが相手の立場になって考えることが大切だ

なあと思いました。

(西信達校区 真鍋 秀二)

関西で人権啓発

12月5日、関西国際空港で、大阪法務局岸和田支局管内市町の人権擁護委員が集まり、人権週間の啓発活動として、啓発物品を配布しました。

人権イメージキャラクター人KENまる君と人KENあゆみちゃん、関西エアポートグループ公式キャラクターそらやんも登場し、啓発を行いました。



◆ 出店あり、コンサートありで皆さん一生懸命に練習されたであろうことがうかがえて、キラキラと楽しそうで、元気をもらいました。

◆ 人権コンサートが今までにない切り口で、人権と音楽のつながりを学べて、とっても良かったです！

◆ 子どもと一緒に参加しましたが、化石のレプリカを作らせてもらったり、かしのき号を楽しんだり、充実した一日になりました。食べ物も、どれも美味しかったです。

◆ 色々な催しがあり、大変良かった。音楽・劇と多くの取り組みがあり楽しかった。中学生が一生懸命でした。すごく良かった、微笑ましかったです。

◆ 子どもの絵画に夢のある表現や考案に感動を覚え楽しませていただきました。とても素晴らしいかったです。



校区の集いが開催されました

春夏に引き続き、市内小・中学校で校区の集いが開催されました。講師の先生たちは、すごく大切なことをわかりやすく、楽しくお話してくれるので、どこの学校の子どもたちも真剣にお話を聞いていました。

子どもたちが楽しく人権について学べるように、今後も引き続き、学校やPTAの方々と一緒に取り組んでいきます。



9月6日(金)東小学校
9月20日(金)西信達小学校
11月30日(土)雄信小学校
ホゼア・パーカーさん



11月8日(金)泉南中学校
太鼓集団「怒」さん



11月24日(日)新家東小学校
根木 慎志さん



11月1日(金)砂川小学校
林家 染太さん



11月15日(金)新家小学校
手話エンターテイメント発信団oioiさん



12月12日(木)信達中学校
真道 ゴーさん



～「2024年 今年の漢字」に思うこと～



2024年の世相を表す漢字に『金』が選ばれました。この漢字を『カネ』と読むか？『キン』と読むか？で意味が変わってきます。

①『カネ』と読めば、政治家の裏金問題や米・野菜の物価高騰で家計が圧迫された一年

②『キン』と読めばやはりパリオリンピックでの日本選手の活躍によるメダルラッシュが印象に残る年、と言う事になるでしょう。実際、競技種目が異なるとはいえ前回自国の東京開催で慣れた気候・環境や移動の少なさ、圧倒的なスタンドの応援と優先エントリーなどのアドバンテージ（いわゆる『開催国効果』）で過去最高のメダルを獲得した東京オリンピックに見劣りしない活躍で我々に勇気と自信を与えてくれた、2024年にふさわしい漢字だと思います。

その中でも、開催時は20歳の大学生だった男子体操の岡慎之助選手の活躍は見事というほかなく、男子団体総合と個人総合、更には鉄棒で金、平行棒で銅と初めてのオリンピックで一大会4個のメダルを獲得しました。男子体操は6種目の総合得点で順位をつ

編集後記

年度の後半は、人権週間など啓発イベントが盛りだくさんでした。

こちらに掲載されているイベントは、どなたでも参加できます。ご興味のある講座やイベントがありましたら、ぜひお気軽にご参加ください。

最後になりますが、今号の作成にご協力いただいた皆さまに心より感謝いたします。

編集委員(松)

ける団体総合・個人総合と、6種目それぞれの得点で順位を決める種目別競技があり、各国代表選手は

①1〜2種目に秀でてE難度やF難度を高得点でこなすスペシャリストと、

②各種目を一定水準以上のレベルでこなすオールラウンダー、に大きく分かれ、個人総合のメダリスト(3人)が種目別でもメダリスト(6×3=18人)になる例は少なく、改めて岡選手のすごさがわかります。

一方、残念なことにロシアのウクライナ侵攻を非難するI O C 勧告で、日本や中国と並ぶ体操の強豪ロシアは国としての参加は叶いませんでした。遡ること40年以上前にもソ連のアフガニスタン侵攻の影響で'80モスクワと'84ロサンゼルスオリンピックでは、東西両陣営のボイコットが繰り返されました。莫大なテ

レビ放映権と選手が着用するシューズやウェアの宣伝効果と相まって、商業主義偏重といわれて久しいオリンピックですが、あくまで主催者やスポンサーの経済戦略上の話です。重大な人権侵害である他国侵攻は許されるものではないかもしれませんが、国際政治の動向と選手の参加は切り離さなければなりません。

岡選手は本人の不断の努力で頂点に立った事になんら疑いの余地はありませんが、次のロサンゼルスオリンピックではロシアを含むすべての国が参加した大会での決着を見たいし、なによりも岡選手自身が一番それを望んでいると思います。

(西信達校区)
柿本 繁雄)